

平成22年6月1日現在

研究種目：基盤研究(B)
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19406032
 研究課題名（和文） NURSING SCHOLARSHIP IN ASIA
 研究課題名（英文） Nursing Scholarship in Asia
 研究代表者
 T U R A L E S U S A N （T U R A L E S U S A N）
 山口大学・大学院医学系研究科・教授
 研究者番号：30420516

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本・韓国・タイ・台湾・中国（香港・マカオを含む）・フィリピン・オーストラリアにおける103名の著名な看護学者へインタビューを行い、看護学についての経験、看護教育・研究の発展を促進あるいは阻害する要因を探究した。インタビューは録音・書き起こし後、データの内容分析を行った。すべての国で挙げられたテーマは、研究における生産性の向上、研究論文の出版、英語論文執筆の困難さ、仕事量の多さ、共同研究の進展であった。参加者らは、今後アジアにおける各国がさらに協同して、看護教育・研究の発展のために資源・知識・技術を共有することが必要であると認識する一方、この15年で目覚ましい進歩が遂げられたということが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：In this project 103 well-respected nursing scholars from Japan, Korea, Thailand, Taiwan, The Peoples' Republic of China, including Hong Kong and Macau, The Philippines, and Australia were interviewed to explore their experiences of nursing scholarship and the barriers to, and facilitators of, nursing education and research. Interviews were recorded, transcribed and the data analyzed using content analysis. The themes that arose in all countries included a rising research productivity, research publications, difficulty in writing English, high workloads, and developing collaborations. Participants concluded there needed to be greater collaboration internationally to resources, knowledge and skills about nursing education and research development, but there have been great improvements over the last 15 years.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	2,900,000	870,000	3,770,000
2008年度	2,400,000	720,000	3,120,000
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	6,300,000	1,890,000	8,190,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：Nursing, Education, Scholarship, Asia-Pacific Nursing, Research

科学研究費補助金研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

アジアにおける看護学は、多種多様に発展・進歩してきたが、日本の看護師のための研究・教育成果は、未だ先進欧米諸国のレベルには達していない。日本またはその他の国では、研究と出版、学習と教育、そして看護のリーダーシップという点において看護学を発展させる努力が続けられており、人々の健康増進と看護専門職の進展を最終目標としている。その方法として、国際的な協力を推進し他から学ぶ、あるいは大学院博士課程へのアクセスを増大させることが挙げられる。そしてこれらの実現のためには、アジアの著名な看護研究者より、優れた学識活動とは何か、看護学の発展を支えるもの・阻害するものは何か、について学ぶことが極めて重要である。同時に、看護の専門活動を通して明らかになることもあるこれらの看護の特徴を分析・識別・一体化・総合しようとするとき、世界的な看護学識というものは、看護師にとって挑戦すべき課題である。綿密な文献調査の結果、アジアの多くの国における看護研究者の経験や見識について、それらを解明する質的研究はこれまで行われていないことがわかった。これは看護知識における大きなギャップである。なぜなら、Cameron-Traub (in Gray & Pratt, 1995) が述べているように、看護師は、ある情報が実践に影響を与えるような知識となる場合、その情報を検証する必要があるからだ。

2. 研究の目的

(1) 日本およびアジア諸国における看護教育・看護研究を促進する要因・阻害する要因を究明する。

(2) 日本およびアジア諸国における、特に大学院博士課程での看護教育・看護研究の発展のための提言を行い、看護師が実践を向上させるために研究のエビデンスを利用する能力を高める。

3. 研究の方法

日本において倫理的承認を得たのち、同意の得られた看護研究者への綿密なインタビューを行った。インタビューを受けた研究者が次の研究者を推薦する、雪だるま技法を利用した。インタビューは録音・書き起こしをし、データの質的内容分析を行った。

次に、台湾・タイ・中国・オーストラリア・フィリピン・韓国の連携研究者らと順に連絡を取り、それぞれの国における研究の複雑な

手順を確認した後、その国での倫理的承認を得てから、インタビューの対象となる看護研究者の特定を開始した。その後は同様の方法でインタビューおよび分析を行った。本研究方法はシンガポールでも試されたが、政治的教育事情により、インタビューを行うことができなかった。

4. 研究成果

本研究では、当初の見込みより多い 103 名の研究者（日本：13 名、オーストラリア：13 名、台湾：12 名、タイ：14 名、フィリピン：11 名、中国：24 名）へのインタビューを行った。そのほとんど（96%）は世界的な看護職の傾向と同様で女性であった。平均年齢は 51 歳で、平均 12 年の看護研究者としての経験を持っていた。また大多数（79%）が自国で看護教育あるいは看護研究の発展のためのリーダー的役割を担う経験があった。96%は博士号またはそれに準ずる学位を取得しており、49%は大学学部長であった。彼（女）らは日々、教育・研究活動、指導、専門分野の探求を行っており、自国の看護教育/研究を促進あるいは阻害する要因や今後の専門分野の発展に必要な事柄についてコメントできる唯一の立場にある。

欧米と比較して、アジアにおける看護教育/研究は発展途上にあることは明らかであるが、最近 15 年間にわたっては目覚ましい変化が起きている。調査したすべての国において、看護学の発展を促進/阻害するものの類似点・相違点が挙げられる。以下にまとめる。

看護学を促進する要因

アジア全域において看護研究者は、根拠に基づく看護を行うこと、健康状態の改善のために世界の他の地域に合わせた看護教育レベルに引き上げること、国際誌での英語論文の出版を含めた研究成果や博士課程修了レベルの学生を生み出すことがますます求められていると認識している。タイで、教育や研究が発展したのは国内の看護リーダー間の強固な協同のためだと感じられているのは特徴的である。タイ・韓国・フィリピン・台湾では、西洋、特にアメリカで教育を受け、その後自国に戻った若手看護師によって看護学の発展が促されたという特徴がある。オーストラリアの研究者は、他のどの国よりも、自国の教育や研究が大幅に発展したと確信している度合いが強かった。タイの研究者は、これまでの多くの外部資金が多数の看護教育者や看護研究者の進歩を支えたと感じている。

看護学を阻害する要因

すべての国で、看護師不足・高齢人口の増加に対応するために多くの看護師を産出すること、国内外とのさらなる協同によって看護知識や研究を発展させることに関連して、看護教育における仕事量が增大していると述べている。看護研究者が他の医療従事者のように研究に打ち込めないのは、教育に関する仕事量の多さのためと考えられている。オーストラリアを除くすべての国は、英語による執筆・共同研究・自己表現の問題があるために苦労していると述べている。この傾向が強いのは特に日本と中国で、海外との共同研究の欠如に苦労している。さらに、オーストラリアを除くすべての国で、多様な看護教育課程のために看護実践についての高い国家標準を保つ難しさがある。ほとんどの国で若手研究者の育成において、例えば研究費の応募申請書の書き方について、高度な指導力の欠如が挙げられる。オーストラリアの参加者からは、将来に向けての新しいリーダーの育成に対する危機感が述べられている。貧困にあえぐ国・フィリピンには、その高い英語レベルと国際的な活動にも関わらず、看護の博士課程が2大学にしかない。十分教育を受けた看護師は、絶えずどこか他の給与の良いところで働くために国を去っている。そのため新たな研究者を育てる研究者が少ししかない。中国もまた、看護教育の発展は大変遅れており、博士号を取得している看護師は非常に少ない。韓国と中国の看護師は、看護教育者に臨床経験が乏しく研究や看護教育において理論と実践のギャップを感じている。日本と中国の研究者は、看護教育の発展や方向性を最も管理できていないという不満を持っている。日本の参加者は、医学が今もなお看護実践や看護教育を支配していると感じている。その他、社会における女性の低い地位や、時代遅れの医学に偏った、国の教育課程が挙げられる。中国では、中央集権体制の政府が方向性の欠如の原因とされている。中国・台湾・韓国では、社会における看護のイメージは悪く、低い賃金と悪い労働条件に悩んでいるのは、中国・台湾・韓国・フィリピンであった。最後に、多くのアジアの参加者は、今でも看護知識の大部分は欧米から輸入されていると考えているが、それでもアジア独自の看護知識が構築されるべきであり、研究を通してそのことが説明されるべきだと思っている。

要旨と結論

ほとんどの参加者が、医学のような他の分野に比べて、高等教育環境におけるアジアの看護の新しさを経験している。参加者は、アジアの看護の発展には、研究者が国内外の他の看護師と協同することが必要であるとい

うことをはっきりと説明している。しかし、このような協同は英会話能力の欠如により阻害され、特に日本の看護師を悩ませている。アジア全域で博士課程の設置は増えており、新たな看護研究者が整備されつつあるが、共同研究努力に従事する看護教育者の能力は、多い仕事量、指導力不足、不慣れた高等教育環境によって阻害されている。参加者は、アジア全域の研究者がつながりを深め、看護を育て、資源・知識・技術を共有することが必要だということをはっきりと確認している。

研究の効果

本研究は、すべての国において、本研究の支援にあたった看護協会や参加者より多くの興味を引くものであった。調査を行った国の研究者らは、歴史や将来の発展に関連した重要な要因を探求することの重要性を認識した。学会やワークショップで研究成果を発表した8回の機会のすべてにおいて、アジアの看護師がいかに教育レベルを向上させ、専門知識体系を発展させるために協力していくかについての重要な議論がなされた。明らかに他の国との類似点も多くあるが、相違点もいくつかあった。これまでに、タイと日本の研究成果についての4論文が主要な看護雑誌に掲載された。台湾の看護研究に関する1論文が採択され、韓国とオーストラリア参加者についての論文が査読中であり、これらはすべて優れた国際誌へ投稿されている。フィリピンおよび中国についての論文は現在執筆中であり、今年中に研究全体を要約した論文を投稿予定である。このように、今回の研究成果を出来る限り広域に発表し、専門職者や政府の政策立案者への提案としたい。本研究を通して、7カ国における看護教育および看護研究の状況について、これまで説明されなかった独自の知識を明らかにすることができたと考えており、その実現を可能にした補助金に深く感謝する。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① Turale S, Shih FJ, Klunkin A, Chontawan R, Ito M. & Nakao F. (2009) Asia-Pacific nursing scholarship development: qualitative exploration of nurse scholars in Taiwan (Republic of China). *Journal of Clinical Nursing*. 査読：有 巻、ページは未定
- ② Turale S, Klunklin A & Chontawan R.

- (2010) Growing together: a qualitative study of leading nurse scholars in Thailand. *International Nursing Review*, 査読: 有 57, 2, 202-210
- ③ Turale S, Ito M, Murakami K, & Nakao F. (2009) Nursing scholarship in Japan: development, facilitators and barriers. *Nursing & Health Sciences*. 査読: 有 11, 166-173.
- ④ Klunklin A, Chontawan R & Turale S. (2009) Nursing scholarship in Thailand: Qualitative perspectives of nurse scholars. Abstract, *Nursing & Health Sciences*. 査読: 無 11, 105.
- ⑤ Turale S, Ito M & Nakao F. (2008) Guest Editorial: Issues and challenges in nursing and nursing education in Japan. *Nurse Education in Practice*. 査読: 有 8, 1, 1-4.

[学会発表] (計 8 件)

- ① Gloria, G. Developing Nursing Scholarship in The Philippines: A Qualitative Study. *13th East Asian Forum of Nursing Scholars*, Hong Kong Polytechnic University, 2010年2月20日
- ② Turale, S. Nursing Scholarship in Asia. *15th School Research Colloquia* of University of Ballarat, Australia, 2009年9月4日
- ③ Turale, S. Developing Nursing Scholarship across Asia. Keynote Speaker. 2nd International Conference on Humanized Health Care organized by Faculty of Nursing, Guangxi Traditional Chinese Medicine University and other co-organizers in Nanning, Guangxi PR China, 2009年10月13日, Abstract p. 30 in Proceedings.
- ④ Klunklin A & Chontawan R. Nursing Scholarship in Thailand: Qualitative Perspectives of Nurse Scholars. 10th Anniversary Symposium of *Nursing & Health Science*, Ube, Japan, 2008年10月17日
- ⑤ Turale, S., Stockhausen L & Ito, S. Nursing Scholarship in Australia. STTI Academic Meeting, Ube, Japan, 2008年10月27日
- ⑥ Turale, S. Nursing Scholarship in the Asia-Pacific Region: Perspectives of Scholars from Japan, Taiwan, Thailand and Australia. In Proceedings of *1st Asia Pacific Conference on Nursing Research. Moving Towards Evidence Based Practice*. College of Nursing

University of the Phillipines Manilla, University of Hawaii at Manoa & College of Nursing. Manilla Hotel 2008年9月5日, p. 40.

- ⑦ 伊東美佐江: 日本の看護学の発展における看護学者の認識, 国際看護研究会第11回学術集会, 独立行政法人国際協力機構 JICA 地球ひろば, 東京都渋谷区, 2008年9月20日
- ⑧ Reider, K. Contemporary efforts in Asia to develop nursing scholarship to improve practice. *Psychosocial Issues in Oncology Nursing*. Berne Switzerland. 2007年3月29日
- [図書] (計 0 件)
- [産業財産権]
- 出願状況 (計 0 件)
- 取得状況 (計 0 件)
- [その他] なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

TURALE SUSAN (TURALE SUSAN)
山口大学・大学院医学系研究科・教授
研究者番号: 30420516

(2) 研究分担者

村上 京子 (MURAKAMI KYOKO)
山口大学・大学院医学系研究科・准教授
研究者番号: 10294662

伊東 美佐江 (ITO MISAE)
川崎医療福祉大学・医療福祉学部・教授
研究者番号: 00335754

中尾 富士子 (NAKAO FUJIKO)
九州大学・大学院医学研究院・講師
研究者番号: 40363113

(3) 連携研究者

タイ: Dr R. Chotawan, & Dr A. Klunklin, Associate Deans, Faculty of Nursing, Chiang Mai University
オーストラリア: Professor L. Stockhausen, Head, School of Nursing, University of Ballarat
フィリピン: Profs MT Sy-Sinda and G. Gloria, Silliman University
中国: Prof S Chan, Formerly of Chinese University of Hong Kong, and Prof M. Petrini, Wuhan University
韓国: Prof K. Shin, Dean, College of Nursing Sciences, Ewha Womans' University
台湾: Prof FJ Shin, Dean, School of Nursing, Yang-Ming National University